

進捗報告書（実行団体）

事業名:	子ども虹の架け橋プロジェクト
資金分配団体:	一般社団法人全国食支援活動協力会
実行団体名:	社会福祉法人大洋社
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	東京都大田区
事業対象者:	大田区在住で未成年のいるひとり親世帯

Version 1.2

日付：2021年10月31日

I. 事業概要

事業概要
人口約74万人の大田区における母子生活支援施設の入所者は40世帯であり、ほとんどのひとり親世帯が地域の中で施設利用者と同じような「貧困」や「虐待」といった問題を抱え、必要な機関へ繋がることなく孤立している現状がある。特に、コロナ禍では、さらに厳しい状況である。大田区地域に根差して活動してきた強みを持つ当団体は、「母子生活支援施設の機能を活用したアウトリーチ事業」「地域のこども食堂、様々な法人や一般企業との連携及び支援事業」「地域の社会福祉協議会との連携の枠組みづくり」を通してひとり親家庭の抱える課題に働きかける。食材補完・配布の実施は、BCPを活用し定期的見直しを行いながら安全により多くの対象者に支援を届けていく。地域で厳しい状況に置かれ、孤立しているひとり親世帯に対しての働きかけを強めるために、食支援を通じた社会資源の更なる活用と地域支援ネットワークの構築に貢献していくことを目的とする。

II. 進捗報告の概要

総括
全体としては、想定活動を順次進めることが出来ている。活動拡大は順調で、4か所のハブ拠点を中心として大田区の子ども食堂含めたネットワーク構築が進んでいる。現在利用者の来所形式による食配布を中心として事業を進めているが、今後利用対象者の拡大や地域で孤立しやすいと考えられるひとり親世帯のニーズに合わせて、アウトリーチ実施方法の検討と確立を図りたい。事業計画の更新検討を、協力機関との情報共有・改善検討、アンケート調査実施等で現場の声を確認しながら実施していく予定である。

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
(1)地域のひとり親や退所者、約100世帯に食料等の支援物資が配布され、貧困・孤立が軽減されている状態 (2)参加者の中で、より専門的相談・支援機能が必要とする方が必要な支援に繋がっている状態 (3)物資の流通を通して、大田区内の子ども食堂や社会福祉法人等との大田区のネットワーク基盤構築が進み、連携体制が安定している状態 (4)他地区（主に福岡県母子生活支援施設）との連携構築が進んでいる状態	(1)7月より本格的に利用者登録と食配布を実施している。10月末までの実績として、配布世帯数は約970世帯（約1960人）となっている。登録者は母子生活支援施設退所者を中心とした地域で生活するひとり親世帯であり、食配布時には、スタッフへの子育て相談や他世帯間交流が見られている。今後、利用者へアンケート調査を実施する予定となっている。 (2)登録時や食配布時に、より専門的相談・支援機能が必要と思われる世帯に対しては、施設入所や子育てサービス事業、その他社会資源の情報提供を行っている。来所時には、子育てに関する相談を中心として、子どもの発達や健康面に関する相談、母子関係に関する相談、子の障害や特性に関する相談等が寄せられており、母子生活支援施設職員が助言や支援、資源提供等を行っている。 (3)4か所のハブ拠点から13か所の大田区内子ども食堂への物資の流通を介したネットワーク構築が確立され、9月よりスムーズな定期食材配布の実施体制が整っている。協力機関とは月1回、定例会議と合同勉強会を行い、大田区のネットワーク構築と連携体制の安定に努めている。また、大田区社会福祉協議会の「ほほえみごはん/絆サポーター」へのスタッフ登録と参加を行い、協同しながら事業を進めている。 (4)福岡県の母子生活支援施設と月1回の合同勉強会を実施している。大阪府の母子生活支援施設とも協力体制を築き、合同勉強会や物資授受等の関わりを保っている。

活動	進捗状況	概要
<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の定期食材配布 ・月1回定例会議の開催 ・月1回合同勉強会の開催 ・大田区社会福祉協議会で 行っている「ほほえみご 飯」へのスタッフ参加 	ほぼ計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・4か所のハブ拠点（大田区立ひまわり苑、大田区立コスモス苑、社会福祉法人有隣協会、気まぐれ八百屋子ども食堂だんだん）、ロータリー企業、13か所の大田区内子ども食堂による物資の流通ネットワークを確立し、9月より月2回の定期食材配布を実施している。 ・4か所のハブ拠点と協力機関（大田区社会福祉協議会等）とは月1回で定例会議を実施し、実施状況月次報告と改善検討、情報共有等を行っている。 ・福岡県の母子生活支援施設と月1回で合同勉強会を実施している。毎回講師を招き、講義による学習と意見交換を行い、事業の質の向上に努めている。 ・大田区社会福祉協議会主催の「ほほえみごはん/絆サポーター」へのスタッフ登録と参加を行い、現在月2回地域のひとり親世帯への訪問アウトリーチ食配付を実施している。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>事業継続の中で、対象者を未成年のいるひとり親世帯に限定せず、地域で困窮・孤立している家庭にも働きかけを拡大し、その為に、現在の協力機関ネットワーク・食材授受経路確立による定期食材配布の安定と共に、食材提供企業への呼びかけを積極的に行い、食材提供企業を増やしていきたいと考える。また、現在利用者の来所形式による食配布を中心として事業を進めているが、今後利用対象者の拡大や地域で孤立しやすいと考えられるひとり親世帯のニーズに合わせて、大田区社会福祉協議会実施の「ほほえみごはん」との兼ね合いも踏まえつつアウトリーチ実施方法の検討と確立を図りたい。</p> <p>また、今後も食配布に留まらず、ニーズに合った相談機関の繋ぎが必要な世帯をネットワークの中で資源へ繋ぎ、各関係機関の強みを持って機能し合える状態を更に強化し構築していきたいと考える。定例会議と合同勉強会の振り返り、今期末に予定している利用者アンケート結果を踏まえ、課題やニーズを把握し、来年度の活動に活かしていきたい。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	-	¥2,994,000	¥2,994,000	¥2,209,658	74%
	管理的経費	-	¥706,000	¥706,000	¥90,585	13%
合計		¥0	¥3,700,000	¥3,700,000	¥2,300,243	62%
補足説明		管理的経費については、今後HP作成経費で執行予定。				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>定例会議や合同勉強会といった密な情報共有の場が持たない13か所の大田区内子ども食堂との連携は、現在模索しながら進めている部分である。各機関が互いの主となる事業を尊重しつつ、大田区ネットワークとして互いの強みを活かして必要世帯に橋渡しするといった連携体制が構築出来るよう、今後も本事業継続の中で意識して働きかけたい。</p> <p>また、コロナ渦という環境要因やスタッフ配置上の人的要因から、食配布は利用者の来所型が主となっているが、積極的に配付日を確認し受け取りにくる世帯がいる反面、母子生活支援施設退所者の中で確実に訪問によるアウトリーチが必要と懸念される世帯は来所型で本事業に繋がらないという現状がある。地域で本当に孤立し困窮し虐待リスク等が懸念される世帯への働きかけの方法は再度検討が必要である。現在は電話対応や別事業を通して子を中心とした関わりでの補完といった働きかけを行っている現状がある。</p>

